



広報

No.229

～ 文教のまち西原 ～

にしはら

町の世帯・人口

(平成3年1月末現在)

世帯数	7,742戸
人口	25,849人
男	13,258人
女	12,591人

1月の人口移動

出生	31件	死亡	6件
転入	77件	転出	81件
婚姻	13件	離婚	0件

編集・発行/西原町役場企画課(広報係) 西原町字嘉手苅112番地 ☎098(945)4533 印刷/(協)丸正印刷



功労者十七名を表彰 町学推協実践活動で合同発表会

平成二年度(第六年次)西原町地域ぐるみ基礎学力向上推進協議会(与那嶺浩会長)実践活動合同発表会が、二月九日午後二時より町中央公民館で開かれた。

発表会には、平安恒政町長、稲福恭助教育長ら来賓多数のほか、町内各支部の地域部会役員、町内小中学校の学校部会役員など約二百五十名余が参加。

発表会では、与那嶺会長あいさつ、学推協事業推進功労者表彰、平安町長や稲福教育長の激励あいさつなどを受けた後、学校部会より新垣加代子さん(西原東幼稚園教諭)、上間カツ子さん(西原東小教諭)、山里朗さん(西原中学校教諭)、地域部会より屋宜宣太郎さん(十一区支部)久場秀美さん(十八区支部)、比嘉京子さん(十九区支部)から各部会を代表して、実践活動の報告がなされた。また、発表会終了後、諸喜田和子氏 中頭教育事務所指導主事による講演「家庭・地域における読書指導と親のかかわり方」も行なわれた。

主な内容

○二頁：地域づくり推進事業

☆町民の優先雇用要請

☆「動く美術館」

○三頁：研修生に終了証交付

☆第七回社会教育研究大会

☆デイ・サービス事業

○四頁：「青少年まちづくり発表会」作文六頁

○六頁：大学貸与奨学生募集

○七頁：独り暮らし老人を激励

☆能力開発セミナー

○八頁：町政カレンダー

なお、同事業推進功労で表彰を受けた方々は次の通りです。

△玉城政光、喜屋武清、城間期一、知念節子、井口信子、仲本賢山、渡慶次賀善、上原静子、末吉技子、新垣幸枝、屋良朝信、新里勝弘、屋宜宣太郎、山城直、仲本善訓、比嘉良富、當間清子―敬称略

町民のアイデアを地域づくり事業に

平安町長 十九人の委員に委嘱状交付

西原町地域づくり推進事業検討委員会委員の任命及び委嘱状交付式が二月一日午後、町役場において行なわれ、平安恒政町長より十九人の委員一人ひとりに委嘱状が手渡された。

同検討委員会は、ふるさと創生一億円事業を継続発展させた「地域づくり推進事業」について、町長の諮問に応じ、事業計画を答申する組織として設置されたもの。

委嘱状交付に先立ち平安町長は「町民から寄せられたアイデアや委員のみなさんのアイデアも含め西原町の地域特性を活かした素晴らしい事業を検討してもらいたい。」



地域づくり推進事業検討委員会委員へ委嘱状交付
：2月1日、町役場

とあいさつ

委嘱状交付後、委員互選により

委員長に宮平吉太郎氏（町総合計

画審議会々長）、副委員長に城間

期一氏（町体育協会会長）が選ばれ

早速、平安町長より「西原町地域

づくり推進事業」の諮問を受け、

第一回検討委員会を開催した。

第一回検討委員会では、町民や

職員から募集したソフト事業関係

（四十七件）、ハード事業関係（百

三十一件）などについて事務局の

説明を一つひとつ受けた後、早速

検討に入った。

町民の優先雇用で要請

平安町長自ら四社を訪問

町（平安恒政町長）では、二月四日午後、町内企業二十九社に対し、町民優先雇用の要請を行った。

平安町長は、上地安治町産業課

長を伴ない、南西石油（株）をはじめ

金秀鋼材（株）、オキコ（株）、三善建設

（株）を直接訪問、新規卒業者や未就

学者、心身障害者、母子家庭等

の町内在住者の雇用拡大とともに地域に根ざした企業活動の推進について協力を要請した。

残り二十五社については、文書による要請を同時に行なった。

同委員会では、町民のアイデアを反映させるべく充分な検討を加え、三月までには町に答申を予定。なお、同委員会委員は次の通り。

▼西原町地域づくり推進事業検討委員会委員▲

氏名	所属
宮平吉太郎	町総合計画審議会々長
城間期一	町体育協会々長
平政 浩	町文化協会々長
与那嶺 信子	町教育委員会
備前 信子	町議会議員
親泊 輝延	町議会議員
比嘉 秀雄	坂田小学校々長
具志堅源三	西原東中学校々長
長嶺 由光	町農業委員会々長
宮平 定昌	町農業協同組合々長
城間 三郎	町商工会々長
大城 盛孝	町自治会連絡協議会々長
小川 孝	町事務担任者会々長
呉屋 安子	町老人クラブ連合会々長
下地 郁子	町PTA連絡協議会副会長
小川 良夫	町婦人会々長
大城 助徳	町助役
泉川 利夫	町総務課長
	町社会教育課長

動く美術館第四回西原町展賑う

西原中・西原東中・三育小へ記念作品

「動く美術館」第四回西原町展（現代日本洋画壇秀作チャリティ展）が二月三日オープン、二月十七日までの十五日間、町民体育館で開催され、町内外から多数の参観者が詰め掛け賑った。

「動く美術館」は、現代日本を

代表する一流の画家の美術作品を

身近で鑑賞することによって、青

少年の情操教育と健全育成を図り

地方文化の振興に寄与しようとい

うもので町（平安恒政町長）・町

教育委員会（稲福恭助教育長）・

沖縄地区動く美術館親美会が主催、

本町で四回目の開催

開館中は、町内の小・中学校の



「動く美術館」第4回西原町展オープン
：2月3日、町民体育館



西原中学校吹奏楽部がオープンセレモニーで演奏

「沖縄の花とシーサー」

振替授業や町内私立小中学校の参観をはじめ、町内外の団体などが会場を訪れ、美術作品の鑑賞を行なった。

また、今回は、「鷲田新太の世

界」と「第二回佐野義定展」の特

別併催展も同時に開かれた。

なお、第四回西原町展を記念し

川島博同館々長から海老原昭治画

伯のF30号の特別制作作品が寄贈

された。

寄贈先、及び作品名は次の通り

▽西原中・「西原中学校俯瞰」

▽西原東中・「西原東中学校遠望」

▽三育学園小・

海外移住者子弟研修生を激励

ブラジル出身の屋良テレサ郁子さんに修了証

平成二年度より開始された本町の海外移住者子弟研修生受入事業



屋良テレサ郁子さんへ修了証を交付
：1月26、町役場会議室

の本年度最後の研修生の修了式が一月二十六日午前、町役場会議室で行われた。

最後の研修生となったのは、ブラジル出身の屋良テレサ郁子さん

で、昨年七月二十三日から今年の一月二十二日までの約六カ月間、町内のハートライフ病院において化学病理検査技術を学ぶとともに日本語についても研修を深めた。

終了式には、平安恒政町長やハートライフ病院側から玉城得繁事

務長らも出席、町職員多数が見守る中、修了証が平安町長より屋良テレサ郁子さんへ交付された。

平安町長は修了証の交付にあたり、「研修の成果をブラジルにもち帰り、ブラジル国民をはじめ、町人会のために頑張つて、沖縄とブラジルの掛け橋となるように活躍してほしい。」と激励。

本町では、すでに平成三年度に向けても海外移住者子弟研修生受入事業について準備を進めており、国際化時代にふさわしい事業の推進を図っている。

三月九日に社会教育研究大会 生涯学習の推進でシンポジウム

「人間性豊かな文教のまちづくりをめざす西原町の生涯学習」――を大会テーマに第七回西原町社会教育研究大会(町教育委員会主催)

が、来る三月九日(土)午後一時半から町中央公民館で開催される。

この研究大会は、日進月歩の勢いで変貌しつつある本町において、今、地域に根ざした生涯学習の諸

問題について町民みんなが参加し、話し合おうというもの。

同大会では、開会行事、「今、文教のまち西原町の生涯学習は、どうあるべきか」でシンポジウムを

開催、コーディネーターに伊川幸子さん(町P連事務局長)、パネラーとして、与那嶺誠二さん(町老連副会長)、上亀直一さん(町子連

会長)、玉那覇悦子さん(西原東小PTA)、城間英明さん(字内間青年会長)が提言、報告を行なうことになっている。

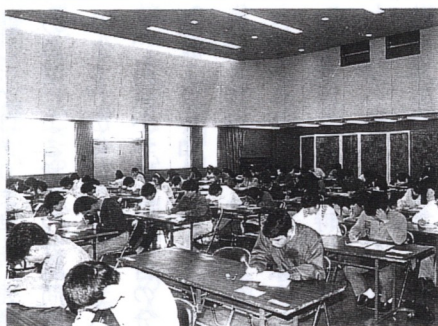
また、「ウチナー方言と私」と題し、方言ニュースでおなじみの伊狩典子先生(小緑老人センター所長)が記念講演をする予定。

町教育委員会では、「文教のまち西原」における社会教育の振興、発展に向けて町民総参加による生涯学習の推進をと呼びかけています。

若干名の定員に96名が受験

平成三年度町職員採用試験

平成三年度西原町職員採用試験が二月十日午前九時より町中央公



平成三年度町職員採用試験のもよう
：2月10日、町中央公民館

民館で開かれた。

採用試験には、一般事務職に五十四名、保母職に二十三名、技術職に二名、単労職に十七名が受験。採用試験は、職種によって教養試験、労務適正検査(単労職のみ)、作文試験、事務適正検査、専門試験などが実施された。

どの職種も採用人員は若干名となっており、受験者一人ひとり我真剣な表情で試験問題に取り組んでいた。

平成3年度

デイ・サービス(通所サービス)利用希望者募集

体が弱くて、日常の動作に不便を感じているお年寄りはいませんか。

また、お年寄りが入浴などが十分にできずにお困りな家庭はありませんか。

西原町では、このような身体が虚弱なお年寄りを施設にお連れし、各種のサービスを提供する事業を平成2年3月から行っています。

これはお年寄りが自立した生活を楽しみ、社会的孤立感を解消し、心身機能の維持向上等を図るとともに、その家庭の肉体的、精神的な労苦の軽減を図ることを目的としたものです。

このサービスを受けるには登録が必要ですので、希望される方は、西原町役場福祉課に申請して下さい。

対象者 おおむね65才以上で身体が虚弱なお年寄り及び一人暮らし老人。

登録人員 90名

費用 1日当り、食事500円、入浴200円

受付期間 平成3年3月6日～平成3年3月20日

平成二年度「西原町青少年まちづくり発表会」作文より

西原町の近未来像

最優秀賞

西原高校二年 辺土名 智子

私達の持つ五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)です。これらの感覚を駆使して、私は生活しています。それは、生活の場である西原町を感じるのと同じことではないでしょうか。私の生活にある変化が起きたとします。それは、些細な事で一見、西原町と何の関係もないようですが、深く考える

私は高校生という独特の立場から、視覚によって西原町の変化をとらえてみようと思います。

環境に順応して生きる生物、人間です。西原町の変化は私達の生活の変化にもつながるのです。五感の中で、視覚による影響は最も強いものです。特に現代において、映像、活字、コンピュータの普及と、視覚より得られる情報量は時として、私達の許容量を容易に越える程になりました。私は毎日、毎時間情報処理を繰り返して、日々をクリアしていくのです。私が西原町に住み始めて十年になりますが、その間、西原町から得る情報量の増えていく速さには驚きます。

私の通う西原高校は、その立地する位置から町内を見渡すことができます。バスによる通学路は一年ごとにその容貌を変えていきます。学校より望む西原町は、日に活気を増し成長していく都市です。

その著しい変化を、最も表しているのが住宅の増加です。昨

年まで、夏には涼しげな青が、冬には暖かな白が広がるサトウキビ畑でしたのに、今年は住宅地となりきれいに区切られています。坂田より中城湾にのびる緩かな傾斜地の緑地に、人工的な色が重なっていく様子は、我が町の未来を暗示しているかのようです。西原町を土地利用別に区分すると、台地文教住宅地域、傾斜緑地保全地域、平野生活活動地域、臨海生産活動地域になります。後者の一つを除いて三つが、人口増加地域にあた

ります。

台地文教住宅地域は、琉球大学、

沖縄キリスト教短期大学を始め

として教育機関が集中しており、

その周辺が住宅地として発展してい

ます。平野生活活動地域は、公的

機関、商業機能の集中により、継

続的に人口が増えています。西原

町は那覇から四十分という地理的

条件に加え、教育機関の充実、今

後の発展性を見込まれ、県内でも

他市町村からの人口の流入の激し

い地域となりました。統計資料を

見ますと、復帰を前後して急激に

増え、これまでの十五年で約二倍

弱に増えています。改めて近所を

見たすと転入してきた人々の多

い事に驚きを感じます。

転入者の住宅の確保は、我町の

今後の重要課題であり、計画的な

都市計画を必要とさせるものです。

急激な人口増加のために市街地

の形成と、生活環境の整備に時間

的なズレが生じているのは早く改

善して欲しい事です。既に市街地

として成り立っている地区は、ほ

とんど整備もされていますが、新

しく開かれた地区は短期間とはい

え不便が生じていることもあるの

です。人口増加に伴う住宅地の拡

大を生活環境の整備と並行して進

められたら最良ではないでしょう

か。

『明るく住みよい西原町』の形

成のために抱える課題は多いと思

います。しかし、第一には道路整

備、排水路、下水道の完備、公園

緑地保護などの基本的環境の整備

の完了があげられるのではないで

しょうか。最近行われた小那覇三

叉路のように、身体障害者のため

の点字ブロック、街路樹の植樹、

歩道の整備など街路の整備と景観

が整えられる事も町全体に広げて

欲しい事です。

人口増加に伴う諸問題は住宅問

題だけではありません。児童生徒

の急増による学校の分離問題があ

ります。広報にしはら二二八号に

て、西原小学校の二度目の分離校

造成工事を知り、改めて西原町の

現状を認識しました。私は分離し

たばかりの西原東小へ転入し、西

原中学校二年終了時に、新設校西

原東中へ分離しました。私の家族

は西原町の人口増加の前半に転入

し、町内の変化の波にのまれて生

活してきました。幼児期を西原町

で過ごした同級生達のように、昔

から伝わる我町を知る間もなく、

新しい環境の新しい校舎を学校生

た事は、分離校と母校の情報の少

ない事でした。急激な人口の増加

により分離することは、在校中の

生徒に大きな変化を準備不全で与

えてしまいます。さらに生徒間の

交流の無い場合、町内に連帯し

た学校、教育の関係が築けないの

ではと不安になります。学校の分

離に際しては、生徒数の消化だけ

でなく、各校が情報交換できる体

系を築けるように準備万全の態勢

まで持っていくて欲しいと思いま

す。

次に、交通問題があげられます。

ここ二、三年で国道三一九号線、県

道三八号線にて交通渋滞が見られ

るようになってきました。これは西原

町の役目を端的に表しているのだ

と思います。那覇市を始めとする

各地の就業者の住む我町は、その

通勤路として利用されるのですから、

人口増に伴い交通量が増えるの

です。朝、以前のように鳥の声で

はなく、エンジン音を最初に聞く

ことも少なくありません。現在既

存道路の拡張、新設道路の整備等

が行われており、それによって交

通渋滞が解消される日も近いもの

と思います。

町政を施して十年を越した西原

(次の頁へつづく)

わたしたちは、緑を豊かにし、美しいまちをつくりましょう

町は、県内でも有数の現在進行形で発展する町です。

復帰以前、純農村として栄えた西原町は、復帰を境にして方向を変えて歩み出しました。地理的、経済的条件に恵まれた我町は現在のどのような方向へと向かっているのでしょうか。

人口急増する我町には、迫り来る高齢化社会問題も抱えています。中央公民館において生涯学習への取り組みが持たれています。私達は寿命がのびた事から、いかに余暇を過ごすのが問題となつていきます。現在推進されている社会教育施設の整備拡充が完了することになり、私達の生涯学習の充実が図られると思います。一個人であり、町民である私達の積極的参加でどれだけ、それらの施設を活用し、独自のプランを立てるのが、これからの西原町の高齢化社会を支えていくのだと考えます。

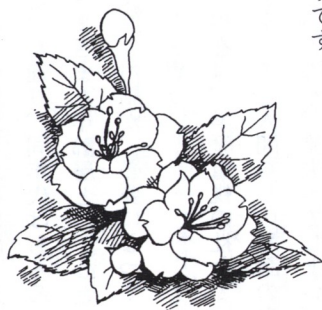
西原町はある意味でベッドタウンの要素を多く持っています。しかし、単に付随的な地域ではないと思います。我が町は、『文教のまち西原』を中心に「人間性豊かな文教のまち」『明るい住みよい平和なまち』『豊かで活力あるまち』を三大基本目標にかかげ、町民参加

の町づくりを推進しているのです。

台地文教住宅地域に立地する二大学を中心として教育、文化面の充実を図り、対話行政による「人と自然の調和した都市づくり計画」をすすめています。二十一世紀に向けた長期的なこの計画を引き継ぐのは私達の世代であり、私達は現在の西原町の姿と未来の姿を関連づけて考える必要があります。

サンライズマリニピア西原という一大計画の完成予想図を、臨海地域の現状と合致させることは困難ですが、実行するのは私達町民なのです。

今後、教育、生産、人口増加等様々な面で発展の可能性を秘める西原町は、新しく増える近未来の都市の型を創り出せる位置にあると言えないでしょうか。素晴らしい形と速さで走る矢の先端にいるあなたは、我町の変化を五感で感じることができはるはずです。



二十一世紀の西原町

最優秀賞

西原東中三年

比嘉

真由美

二十一世紀。

こうやって書くと、まるで遠い未来のように感じられる。

確かに、あと十年という歳月は、長いかもしれない。

しかし、私たち中学生が二十代の青年に成長しているであろう十年後、二十一世紀は、案外近くにあるのかもしれない。だから、一概に、「二十一世紀は遠い未来である」とは言えないのだと思う。

二十一世紀は、すべての面で、現在よりも機械化・オートメーション化が進み、生活の中にも、教育の中にも、あらゆるものにコンピュータが導入されるだろう、といわれている。そして、あらゆる面で、次第に、人間の手を煩わせるようなことが少なくなっていくだろう、とも。

もしそうだとすると、真つ先にその変化に感応するであろう沖縄一の都市、那覇市に隣接する、この西原町にも、少なからぬ影響があるに違いないだろう。

二十一世紀が、そのとおりの社

ただ、町内に中学校が二校あるのに、その二校の間での、生徒同士のふれあいが少ないというのが、私にはとても残念に思える。

小学生のときはとても仲の良い友だち同士だったのに、中学生になつて、学校が別々になつてしまったために、あまり話をしなくなつた、という例を、私はいくつでも知っている。

その事に対して、「人生に出会いと別れはつきものだ」などと言つてしまえばそれまでだが、同じ町内に住んでいながら、互いに相手のことが分からない、というのは、あまりにも寂しいことではないだろうか。

それに、この西原町内に、せっかく高校・短大・大学と、高等教育の場があるというのに、その様子や、その学校の在学生の話を聞かずに終わる、というの、もつたないような気がする。

そこで、公の場で、同じ年齢層の、学生同士の交流会のようなものが、行われても良いのではないだろうか、と私は考えた。自由に情報交換や思い出話、同年代同士じゃなければ話し合うことのできない悩みなどを打ち明けあったり

(次の頁へつづく)

する場が、あっても良いのではないかとと思う。

そして、学生同士ばかりでなく、高齢者の方々と学生(若者)との交流も、高齢化社会が予想される二十一世紀には、必要になってくるのではないだろうか。

このよな、さまざまな年齢層との自由な交流は、互いに得る物も多いだろうし、同じ町内に住む者同士、年齢を越えて、互いにわかりあえる、ということは、いつになっても必要不可欠だと思う。

しかし、現状は、たとえば、学生同士の交流は限られた範囲内の友だちや先輩間で、それ以上に世界を広げるといのは難しいところにあるし、若者と高齢者とのふれあいの場も、ごく限られていて、家族や親せきの間柄や、一種のボランティアのような形でしかもない、というのが、実際の姿である。

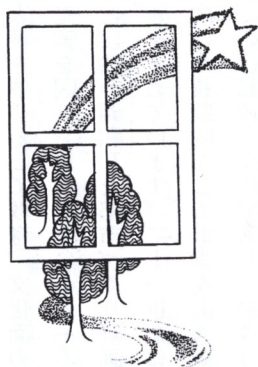
二十一世紀は、機械化され、コンピュータ導入が盛んになる社会生活が予測されると同時に、現在よりも高齢者の割合が高くなるという、高齢化社会も予想されている。

そのような二十一世紀に、私たちが、人間らしく心や感情を忘れないで生活するためには、先にも述べた通り、同年代はもちろん、さまざまな年齢層との、心と心の交流・対話が、必要になってくるのだと思う。

現在、学歴重視の社会で、下手をすると人間らしい対話の生活、というのを、見失ってしまいがちになる。本当なら、もつと夢にあふれていても良いはずの中・高校生の心が「受験」という重圧に押しつぶされて、潤いを忘れてしまっている。

二十一世紀には、そんなことはあつてほしくない。多かれ少なかれ、誰もが希望をもてるような、明るい社会であつてほしい。

二十一世紀の西原町は、明るい雰囲気の中の対話と笑いによる、心と心の交流がさかんで、人間重視の、人々に密着した町になることを期待する。



平成3年度大学貸与奨学生募集要項

西原町人材育成会

西原町人材育成会は、西原町の振興開発を担う人材の育成を目的として、大学に在学する西原町出身の学生に対して学資を貸与するため、平成3年度の大学貸費生を次のとおり募集する。

1. 貸費生の種類、募集人員、貸与月額等

貸費生の種類	募集人員	貸与月額	対 象
西原町貸費生	県外大学	人 国公立30,000円 私立30,000	県外の大学(短大も含む)に在学する学生
	県内大学	国公立20,000 私立20,000	県内の大学(短大も含む)に在学する学生

2. 応募資格

沖縄県に本籍を有し、沖縄県内の高等学校に入学し引き続き在学し卒業した者、または、沖縄県内において大学入学資格検定に合格した者であつて、県外および県内の大学に在学している者のうち、学業、人物ともに優秀であり、かつ健康であつて、学資の支弁が困難と認められる者(日本育英会から奨学金の貸与を受ける者を除く)とする。

3. 貸与及び返還

- (1) 貸与の期間
平成3年4月から在学する大学の最短修業年限の終期まで。
- (2) 返 還
貸与終了後6か月を経過した後、5年以内に年賦で返還。

4. 奨学生推薦基準

- 学力について
- (1) 大学1年次に在学する者。
高等学校における成績の評定平均値が2.8以上であること。
 - (2) 大学2年次以上に在学する者。
下記単位数以上を修得していること。
2年次生 33単位
3年次生 57単位
4年次生 85単位

5. 出 願 書 類

- ①貸費生願書 ②貸費生推薦調書 ③所得証明書 ④住民票抄本 ⑤戸籍謄本
(本籍記載必要)

6. 出願書類の受付期間

平成3年3月20日～平成3年5月10日本会必着
但し、県内大学に在学する者は、各大学の定める期日までに大学へ提出すること。

7. 採用決定及び通知

本会選考委員会において選考し、大学長または連帯保証人を経て本人に通知する。(6月中旬頃)

8. 応募書類の提出先及び連絡先

〒903-01 西原町字嘉手苅112番地
西原町人材育成会
(西原町教育委員会内)
TEL 098-945-3656

平成3年度高等学校学資貸費生募集要項

西原町人材育成会

1. 目 的

沖縄県内の高等学校に在学する生徒に対して、学資金を貸与し、有為な人材を育成する。

2. 貸費生の種類、採用予定人員、貸与月額

種 類	採用予定人員	貸与月額	対 象
貸 費 生		10,000円	平成3年4月県内の高等学校に在学する者。

3. 募集資格

沖縄県に本籍及び西原町に住所(一時的な住所は除く)を有する者の子弟であつて、沖縄県に所在する高等学校に在学する優秀な生徒で、次のいずれかに該当する者。(日本育英会及び沖縄県人材育成財団から奨学金の貸与を受ける者を除く。)

- (1) 学業及び人物が優良であるにもかかわらず、経済的理由によって高等学校における修学が困難である者。

4. 貸与及び返還

- (1) 貸与の期間
平成3年4月から最短修業年限の終期まで。
- (2) 返還
貸与終了後6か月を経過した後、5年以内に年賦で返還。

5. 貸費生推薦基準

- (1) 高等学校に在学する者。
中学校における最終学年の学習成績の評定を全履修教科について平均した値が3.0以上であること。
- (2) 高等学校第2学年以上に在学する者。
出願時までの高等学校における学習成績の評定を全履修教科について平均した値が2.8以上あること。

6. 提出書類

- (1) 奨学生願書
- (2) 学校長の推薦書
- (3) 同一所帯の所得証明書
*年金、扶助料、母子年金等の受給者は証書の写しを添付すること。
- (4) 住民票謄本、戸籍謄本

7. 提出書類の受付期間

平成3年3月25日から平成3年5月10日まで。

8. 採用の決定通知

平成3年6月中旬までに決定し、保護者を経て本人に通知する。

9. 応募書類の提出先及び連絡先

西原町字嘉手苅112番地
西原町人材育成会(西原町教育委員会内)
TEL 098-945-3656

目標をもって長生きして下さい

町社協独り暮らし老人を激励



福引き大会などで賑った一人暮らし老人激励会
：1月29日、町社会福祉センター

町社会福祉協議会（宮平吉太郎会長）主催、平成二年度西原町ひとり住まい老人激励会が一月二十九日午後、町社会福祉センターで開かれた。

激励会には、町内の一人暮らし老人百五十人のうち、六十余人が参加、宮平町社協会長や翁長正貞町助役（町長代理）の激励あいさつを受け、琉球舞踊や豪華景品が

当る福引き大会、民謡ショーなどで楽しいひと時を過ごした。

宮平町社協会長は、「人生において目標をもって生きれば長生きすることが出来る。健康を第一にいつも笑顔を大切に豊かな心をもつて過ごして下さい」と激励。町社協では、これまで隔年ごとにピクニックと激励会（舞台観賞）を実施し、老人福祉の向上に努めている。

熱気あふれる演技、競技を展開

平成二年度 少年剣道・なぎなた大会

町体育協会（城間期一会長）主催、平成二年度町少年剣道・なぎなた大会が、一月二十七日、西原小学校体育館で開かれた。

大会には、小学生四十五名、中学生十五名、合計六十名が参加、元氣いっぱい気合とともに熱気あふれる演技、競技を展開した。

なお、結果は、次の通り。

少年剣道大会

▼初心者（優秀賞）・新垣実（西小四年）、国吉正彦（東小四年）

▼初級者（防具着用）優秀賞・渡慶次順二（西小四年）、山里みゆき（琉附小四年）、潮平義将（城南小）

▼基本競技の部（四年六級以下）一位・加屋本大（東小四年）

二位・宮里公平（坂小四年）

三位・平良智之（東小四年）

▼小学生個人戦

一位・西川知之（浦添小五年）

二位・万里崎広太（西小六年）

三位・伊計公人（坂小五年）

▼中学生個人戦

一位・湧川朝広（西中三年）

二位・伊佐敬晃（西中三年）

三位・加屋本了（琉附中一年）

【なぎなた大会】

▼競技演技団体戦

優勝・末吉央尚、伊芸梓、鉢嶺維子、狩俣由香子、大城いずみ、大城弥生、桑江よしのチーム。

▼試合競技団体戦

優勝・末吉央尚、玉城綾乃、東盛綾子、宮城茜、野村並花チーム。

能力開発セミナー（4月分）受講生募集中！

沖縄技能開発センターでは、在職者の方の職業能力の向上に、能力開発セミナーを実施しております。お申し込みは、電話で。講習初日の1ヶ月前からの受付です。

コース名・定員・対象者	講習日時	受講料	テキスト代
自動車整備講習 10名 エンジン編（実技） 一般・整備従事者	4/15、16、17、18、19 月・火・水・木・金の5日間 18:00～21:00	500円	1,400円
パソコン活用入門 20名 （新一太郎） 初心者	4/15、17、19、22、24、26 月・水・金の6日間 18:00～21:00	500円	未定
パソコン活用入門 20名 （MS-DOS） 初心者	4/15、17、19、22、24、26 月・水・金の6日間 18:00～21:00	500円	未定
ワープロ入門 20名 （NEC文豪） 初心者	4/15、17、16、22、24、26 月・水・金の6日間 18:00～21:00	500円	未定
2種電気工事試験 30名 受験準備講習（学科） 2種電気工事試験受験希望者	4/19、22、24、26、5/8、10、13、 15、17、20、22、24、27、29、31、 6/3、5、7、----- 月・水・金 の18日間、18:00～21:00	500円	1,100円

※定員になり次第、締め切らせていただきます。尚、受講料等は、講習初日に納入して下さい。申し込み先は沖縄技能開発センター開発援助課、TEL098-936-1755まで。

香典返し

▽字内間37番地の大城秀次さん、故母カマドさんの香典返しとして町社協、町老人クラブ連合会並びに町人材育成会へそれぞれ一〇万円（合計三〇万円）。
▽字上原68番地の屋良朝進さん、故父朝智さんの香典返しとして町人材育成会へ一〇万円。

自動車税を納めてない



ただいま、自動車税の滞納整理強化月間中、最寄りの銀行、農協、信用金庫等へ納めて下さい。沖縄県

わたしたちは、だれにも親切にし、互いに助け合いましょう

MARCH

3月（やよい弥生）

町政カレンダー

☆家族プランを入れご活用下さい。

日	旧暦	潮汐	行事予定	日	旧暦	潮汐	行事予定
1(金)	1/15 先負	⊕ 1:27 ⊖ 7:44 ⊕ 13:43 ⊖ 19:46	町社協食事サービス 10:00 町中央公民館	16(土)	2/1 友引	⊕ 1:07 ⊖ 7:18 ⊕ 13:20 ⊖ 19:24	絵本づくり講座 14:00 町中央公民館
2(土)	16 仏滅	⊕ 2:01 ⊖ 8:11 ⊕ 14:17 ⊖ 20:23	ひなまつり大会 15:00 町児童館 絵本づくり講座 14:00 町中央公民館 「青少年まつり」発表会 14:00 町中央公民館	17(日)	2 先負	⊕ 1:38 ⊖ 7:45 ⊕ 13:55 ⊖ 20:01	スポーツ少年サッカー交流大会 9:00 西原東小
3(日)	17 大安	⊕ 2:33 ⊖ 8:39 ⊕ 14:53 ⊖ 21:01		18(月)	3 仏滅	⊕ 2:07 ⊖ 8:10 ⊕ 14:29 ⊖ 20:42	
4(月)	18 赤口	⊕ 3:02 ⊖ 9:03 ⊕ 15:25 ⊖ 21:39		19(火)	4 大安	⊕ 2:39 ⊖ 8:40 ⊕ 15:06 ⊖ 21:22	
5(火)	19 先勝	⊕ 3:29 ⊖ 9:28 ⊕ 16:00 ⊖ 22:15		20(水)	5 赤口	⊕ 3:10 ⊖ 9:09 ⊕ 15:49 ⊖ 22:09	心配ごと相談 14:00 町社会福祉センター
6(水)	20 友引	⊕ 3:57 ⊖ 9:55 ⊕ 16:37 ⊖ 22:59	心配ごと相談 14:00 町社会福祉センター	21(木)	6 先勝	⊕ 3:47 ⊖ 9:46 ⊕ 16:37 ⊖ 23:05	
7(木)	21 先負	⊕ 4:23 ⊖ 10:22 ⊕ 17:19 ⊖ 23:53		22(金)	7 友引	⊕ 4:27 ⊖ 10:26 ⊕ 17:37	町社協食事サービス 10:00 町中央公民館
8(金)	22 仏滅	⊕ 4:55 ⊖ 10:57 ⊕ 18:21	町社協食事サービス 10:00 町中央公民館	23(土)	8 先負	⊖ 0:21 ⊕ 5:23 ⊖ 11:24 ⊕ 18:58	絵本づくり講座 14:00 町中央公民館
9(土)	23 大安	⊖ 1:36 ⊕ 5:46 ⊖ 11:52 ⊕ 20:06	第7回西原町社会教育研究大会 14:00 町中央公民館 絵本づくり講座 14:00 町中央公民館	24(日)	9 仏滅	⊖ 2:16 ⊕ 7:12 ⊖ 13:01 ⊕ 20:38	
10(日)	24 赤口	⊖ 4:13 ⊕ 8:28 ⊖ 13:51 ⊕ 21:54		25(月)	10 大安	⊖ 4:00 ⊕ 9:29 ⊖ 15:00 ⊕ 22:01	
11(月)	25 先勝	⊖ 5:09 ⊕ 10:21 ⊖ 15:45 ⊕ 22:54		26(火)	11 赤口	⊖ 4:57 ⊕ 10:43 ⊖ 16:25 ⊕ 23:01	
12(火)	26 友引	⊖ 5:41 ⊕ 11:10 ⊖ 16:48 ⊕ 23:34	教育講演会 18:00 町中央公民館	27(水)	12 先勝	⊖ 5:36 ⊕ 11:31 ⊖ 17:24 ⊕ 23:48	心配ごと相談 14:00 町社会福祉センター
13(水)	27 先負	⊖ 6:06 ⊕ 11:47 ⊖ 17:33	心配ごと相談 14:00 町社会福祉センター	28(木)	13 友引	⊖ 6:07 ⊕ 12:10 ⊖ 18:12	
14(木)	28 仏滅	⊕ 0:06 ⊖ 6:31 ⊕ 12:17 ⊖ 18:10		29(金)	14 先負	⊕ 0:26 ⊖ 6:38 ⊕ 12:47 ⊖ 18:55	
15(金)	29 大安	⊕ 0:38 ⊖ 6:55 ⊕ 12:50 ⊖ 18:48	町社協食事サービス 10:00 町中央公民館	30(土)	15 仏滅	⊕ 1:00 ⊖ 7:04 ⊕ 13:20 ⊖ 19:34	
				31(日)	16 大安	⊕ 1:33 ⊖ 7:31 ⊕ 13:54 ⊖ 20:09	



九州地区で体育指導委員功労で表彰を受けた新川千代子さん

九州地区功労賞を受賞
新川千代子町体育指導委員
西原町体育指導委員の新川千代子さん（55歳）が、平成2年度九州地区体育指導員協議会より功労者表彰を受けて町社会体育関係者をはじめ町民多数から喜ばれている。新川さんは、永年にわたり本町の体育指導委員として、町民の健康・体力づくり教室や指導者養成講習会等の企画・運営に携わり、レクリエーションをはじめ、軽スポーツ、民踊等、少年層から高齢者まで幅広い指導を行ない、本町の社会体育の振興に大きく貢献したことが認められての受賞。
特に、子どもエイサーをはじめ婦人会、老人会等、幅広い踴での指導、民踊サークルの結成、町行事への積極的な参加、協力など、地域ボランティアで知られている。

わたしたちは、時間を守り、すすんであいさつをしましょう